

## 2-2-8 その他

### ■サギ類

- 主な被害対象作物：稲
- 被害の特徴と痕跡：田植え直後の稲田で歩きながら魚、カエル、ザリガニ等の小動物を探して食べる際に、苗を踏みつけると生育が阻害されることがある。収量に影響するほどの被害になることは多くはない。
- 長いくちばしや首、脚が特徴の水鳥。日本の水田で見られるのは主にアオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アマサギ、ゴイサギの6種で、このうち全体的に白色である4種（ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アマサギ）は「シラサギ類」とも総称される。春から夏の繁殖期には各地の樹林や竹林に集団繁殖地（コロニー）を形成して繁殖する。ここでは全国でよく見られる大型の2種をとりあげる。



#### ■アオサギ

全長約93cm、日本で見られるサギ類で最も大きい。雌雄とも全身が青みを帯びた灰色で、背や翼がいくらか濃い。目の上から後頭部へ黒条があり、冠羽が伸びる。繁殖期はくちばしと脚に赤みが増す。全国の河川、水田、海岸等の水辺で1年中見られ、個体数が増加している。昼夜とも活動し、単独で行動することが多い。



#### ■ダイサギ

全長約89cm、シラサギ類の中で最も大きい。雌雄とも全身白色で、繁殖期にはくちばしは黒色、目元の裸出部は青緑色。秋～冬にはくちばしは黄色、目元の裸出部は淡黄緑色。全国の河川、水田、海岸等の水辺で1年中見られ、個体数が増加している。昼間に活動し、夜間は水辺の樹上や杭上に単独又は小群でねぐらをとる。

### ■ガン類

- 主な被害対象作物：麦類、牧草
- 被害の特徴と痕跡：農耕地では主に収穫後の水稲田で落ちもみを採食し、副次的に畦畔のイネ科雑草などを食べるが、大豆、デントコーン、ブロッコリー、はくさいの収穫残さも食べる。また、農業被害では、麦類（小麦、大麦）と牧草への食害があり、どちらも食害を受けると減収につながる。加害時期や程度、生育環境や天候、播種量や追肥などの管理方法によって減収の程度は異なる。春の飛来地では、食害の時期が遅いほど、また、食害の部位が大きいほど、主に莖数と一穂粒数の減少によって減収が大きくなった。
- 日本で越冬する主なガン類はマガン、ヒシクイ、シジュウカラガン、ハクガン、カリガネ



#### ■マガン

全長70～80cm、重さ2～3kgの大型の水鳥で、主に北日本に飛来する冬鳥。越冬地では、開けた湖沼や河川をねぐらとし、周辺の農耕地を採食場所とする。全体的に褐色で地味な鳥ではあるが、くちばしの基部が白く、腹部に不規則な黒斑がある。幼鳥は上記特徴がないが、くちばし基部の白斑は一年目の冬に、腹部の黒斑は2年目の夏に発達する。

## ■ハクチョウ類

●主な被害対象作物：麦類、牧草

●被害の特徴と痕跡：冬になると極東ロシアから渡ってきて日本で越冬するハクチョウはオオハクチョウとコハクチョウの2種。麦類や牧草の葉を食べる。コブハクチョウでは田植え後の稲の葉を食べる被害が出ている。



#### ■オオハクチョウ

全長約140cm。ガン類より大きい水鳥。冬鳥として本州以北の湖沼、河川、内湾などに渡来する。



#### ■コハクチョウ

全長約120cm。オオハクチョウより小さく、首が太くて短め。冬鳥として本州以北の湖沼、河川、内湾などに渡来する。



#### ■コブハクチョウ

全長約150cm。オオハクチョウより大きく、くちばしの付け根に黒いこぶがある。日本各地で飼育され、一部が野生化して繁殖しており、1年中見られる。

## ■オオバン

- 主な被害対象作物:れんこん
- 被害の特徴と痕跡:秋から冬の収穫期、湛水されたハス田の泥中にあるれんこんを倒立したり潜水したりしながら突いて食べることがある。水面や畦上に残された収穫残さのれんこんもよく食べる。春の定植後には伸長してきたハスの新芽を折り取って巢材に使うことがあり、生育が阻害される。茨城県で被害が顕著。



全長約39cm、丸みのある体型。全身が黒色で、くちばしから額の白い部分が目立つ(くちばしから額が赤いのはバンという別種)。河川や湖沼に生息し、水辺を歩いたり水中に潜ったりしながら水生植物や小魚、昆虫等を主に食べる。全国で1年中見られ、個体数が増加している。昼夜とも活動する。繁殖中はつがいになわばりを持つが、他の時期は群れで生活することが多い。

## ■キジ

- 主な被害対象作物:大豆、サツマイモ
- 被害の特徴と痕跡:ハト類と同様、大豆の出芽期に子葉を食べる。サツマイモが収穫前に地面に露出すると被害にあいやすい。



全長約80cm。本州、四国、九州で1年中見られる。北海道には、中国などが原産の別亜種コウライキジが放鳥されている。オスの体は光沢のある緑色で、顔は赤く目立つ色彩をしている。



全長約60cm。メスは全身淡黄褐色で黒褐色の斑がまだら模様で目立たない。

## ■シロガシラ

- 主な被害対象作物:かんきつ類、パパイア、トマト、いんげん豆、キャベツ、レタス
- 被害の特徴と痕跡:かんきつ類、パパイア、トマトなどは実、いんげん豆は莢、キャベツ、レタスは葉に被害を受ける。被害の発生時期は冬が多い。



全長約19cm。沖縄本島と周辺の離島でのみ見られる。ヒヨドリに近い種類だがヒヨドリより一回り小さい。沖縄本島では南部で被害が多い。

## ■メジロ

- 主な被害対象作物：かんきつ類
- 被害の特徴と痕跡：くちばしが小さく果皮を破る力が弱いため、他種があけた穴から果肉を食べることが多い。



全長約12cm。黄緑色が鮮やかな小鳥。目の周りが白い。日本全国で1年中見られる。甘いものを好む。

## ■カワラヒワ

- 主な被害対象作物：麦類、そば、なたね、ひまわり
- 被害の特徴と痕跡：種子食であり、群れで生活するため被害が大きくなることもある。播種期の種子への被害が多いが、収穫期にも被害が出る。



全長約14～17cm。スズメくらいの大きさ。翼を広げると黄色い部分が目立つ。九州以北の地方で見られ、北海道以外では1年中見られる。冬鳥として本州以南に渡来する亜種オオカワラヒワは亜種カワラヒワより一回り大きい。

## ■ウソ

- 主な被害対象作物：サクラ、もも、うめ
- 被害の特徴と痕跡：冬から春にかけてサクラ、もも、うめなどの花芽を採食するため、結実できなくなるほか、花見などにも影響が生じている。



全長約16cm。スズメより一回り大きい灰色の小鳥。オスは喉から頬にかけて赤いのが特徴的。メスには赤い部分がない。本州中部以北の亜高山帯で繁殖し、冬期に低山や平野部へ移動する。

